

【本校の強み弱みを共通理解し年間計画を考える】

三重県松阪市立三雲中学校 楠本 誠

1. 単元について

(1) 学年と単元名(題材名)

・校内研修

(2) ねらい

年度初め、本校の強み弱みを全体で確認し、弱みを克服する具体的な取り組みを考え、年間計画に取り入れる。

(3) 概要

第1回 本校の強みと弱みを共通理解しよう。

第2回 学力向上につなげる具体的な取り組み考えを年間計画につなげよう。

2. 本時の活動について

第1回ではそれぞれが考える本校の強みと弱みを出し合い、学習、生活、研修などに整理した。第2回では第1回で明らかになった弱みの中から学力に焦点化し、学力向上を促進するための具体的な取り組みについて出し合い、年間計画作成につなげた。以下は第2回の活動概要である。

- (1) まず、個人活動である。教員各自がタブレットをひらき、課題についてXBのカードに記入した(図1参照)。
- (2) 次に、グループ活動である。各自のタブレットを持ち寄り、グループで各自の意見を出し合い、カードの分類、整理をした。XBは各自が書いたカードを選択し、送りたい端末に向けて指をスライドさせることで端末を越えて情報をやりとりできる。4台のタブレットを4象限にみたと、縦軸は取り組む時間軸(授業、日、月、学期、年間)、横軸は取り組む単位(個人、教科、学年、学校、地域)に分類した。この活動中に、新しく浮かんだ考えや意見はオレンジカードとして追加した。(図2参照)
- (3) 次に、個人活動である。それぞれ4台のタブレットには他のタブレットからカードが送信されている。これらタブレットの画面をそれぞれに分配した。この作業により、他の3人のタブレットの画面と自分のタブレットの画面が全て表示される(図3参照)。これを各自が持ち帰り、カードの分類を再検討、再構成した。また、この活動中に新しく浮かんだ考えや意見はオレンジカードとして追加した。さらに、分類したカードはそれぞれまとめ、タイトルをつけた。
- (4) 最後に、全体共有である。各自が再検討、再構成した画面を見ながら、電子黒板に表示し共有をした(図4参照)。様々な視点から具体的な取組案が提案された。



図1 課題について各自がXBカードを作成する 図2 カードを4象限に分類する



図3 分配を行う 図4 再検討再構成した考えを発表する

3. XB活用のポイント

XB研修会とは

XBの操作は特別なボタンや操作はなく、比較的容易である。しかし、初めてXBを操作する教員や、ICT機器を苦手とする教員にとって、ハードルが高い場合も考えられる。

そこで、本活用の前に、XBを操作する時間を設けた。しかし、XBカードを送信したり、受信したりする作業や、タブレット画面の分配など、XBの操作が主となる研修でなく、簡単な課題を提示し、グループで課題解決を図る一連の協調学習をXBによってどう実現できるかを体感できる研修会とした。

新しい機器が導入されれば、機器によって実現できることを画策する。具体的な活用場面を求める。つまり、最初の研修会は「機器の使い方」研修が主になることは避けたいと考える。XBは複雑な操作が必要でない。そのため、「XBの使い方」研修でなく、「XBで実現できる授業を体感する」研修が可能となる。